



78

7月8日を「なはの日」に。

7月

第642号 毎月1回発行
2004年(平成16年)

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2004(平成16)年3月末現在	
総人口	311,869(1,914)
男	150,895(991)
女	160,974(923)
世帯数	124,312(1,139)
住民基本台帳人口の別(外国人を除く)	
本 庁	89,877
真和志	105,570
首 里	58,975
小 浜	55,533



広報

市民の友

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 光文堂印刷株式会社



新しい魅力と風格あふれる都市に

「なはの日」制定に向け イベント開催

王府時代、王都首里を「スイ」、商都那覇を「ナーファ」と称し、二つの都を「スイナーファ」と呼び親しみました。

河川からの土砂の堆積で生まれた那覇は、古くは「浮島」と呼ばれる長さ2km、幅1kmの小島でしたが、15世紀に建造された長虹堤により首里と結ばれました。

那覇・首里の両特別区に市制が施行されたのは1921年(大正10年)のことでした。

その後、那覇は沖縄戦の未曾有の苦難を乗り越え、近隣の首里市小浜村、真和志市と合併し、現在の那覇市をかたちづくりしました。

日々、膨張し続ける那覇の新たな個性を掘り起こし、那覇を全国に発信していくという熱い思いで集まったみなさんにより、いま7月8日を「なはの日」にしようという活動がわきおこっています。

7月8日を中心に那覇を愛する多くの人々により開催される「那覇の日制定」イベントが、新たな那覇の魅力発見のきっかけになり、元氣な那覇を広く全国にアピールしていく多彩な取り組みにつながっていくと見えています。

真夏の夢はふくらむばかりです。
(2面に関連)

主な紙面

- 7月8日を「なはの日」にしよう！
ユイメール登録制度をどう活用するか？
お楽しみ情報
夏休みだよ全員集合！
通常選挙の投票日です
情報PACK

7 6 5 4 3 2

市長談 TAIDAN 15



原島 秀毅
元外務省沖縄大使

昭和12年愛媛県生まれ。一橋大学卒。昭和37年外務省入省。在フランス大使館をはじめ世界各国で勤務。昭和49年ニューヨーク国連代表部公使などを経て平成9年沖縄担当特命全權大使、平成13年外務省選管とともに那覇市に移住。美ら島大使。

翁長雄志市長 沖縄担当大使として様々な行事に参加され、沖縄に対する愛情をお伺いすることができました。現在、那覇市にお住まいのようですね。また、サンシンもなさっているようですね。

原島秀毅さん 仕事を通して県民の方々と共通の課題に取り組んでいくにつれ、沖縄の歴史・文化、社会固有の温かさなど、その魅力に惹かれました。サンシンについては昨年、琉球民謡協会の新人賞を頂きました。同じ教室に、若い子どもたちもいますが、伝統的なものが受け継がれていることが、すごく魅力的に感じます。

市長 近年、子どもたちにとって沖縄・琉球文化が誇らしいものになっていくと感じています。小さな頃から学校や地域を通して、サンシン、エイサーなどの伝統芸能に取り組んでいる姿を見ると、沖縄の将来が楽しみです。

原島 沖縄の伝統的なイベント、那覇大綱曳は世界というだけの熱気やバイタリティーがあります。この感動を、大綱曳の日以外に訪れた観光客にも強く印象づけるために、映像を空港で放映し、その側に雄綱と雌綱とカヌチ棒を展示して伝統文化を紹介するなど、検討していただきたいと思っています。さらに市長の証明書付きの当日の「綱」を豊後のお守りとして販売してはいかがでしょうか。

市長 販売することで、展示する資

美ら心を受け継ぐ未来を

原島 金を確保することもできそうですね(笑)。これは、ぜひ私の努力目標でもあります。原島 伝統文化のほか、沖縄には神が与えた宝物がいくつもあります。一つは海と渚。地中海やインド洋など世界各国を見て参りましたが、沖縄の海の素晴らしさには感激しました。また、私が島ナイチャーになつてうれしかったのが、日本が10年以上低迷している中で、元氣なパワーを沖縄が発信していることです。統計で所得水準は低いことになっていますが、私には沖縄の生活の質は全国一高く、身近な自然環境や「美ら島」、「美ら心」は、お金に換算できない価値があります。それを伝統文化の中に受け継ぎ、守り続けることができれば、沖縄の未来はとて明るいと思います。

市長 私たちが小さい頃から受け継いだものは、素晴らしい財産であることを再認識することができました。しっかりと見直し、育んでいきたいと思っています。

